



こんにちは、大使館【第23回】ボスニア・ヘルツェゴビナ

2016年は外交関係樹立20周年 元サッカー代表の宮本恒靖選手がサッカー学校を設立 オシム監督は典型的ボスニア・ヘルツェゴビナ人 桜と温泉が大好きだという女性参事官が語ってくれました



◀ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館参事官
Counsellor, Ms. Jelena Pasic
(イェレナパシッチ)さん

IACの文化交流の強力なパートナーは、各国在日大使館です。それぞれの国について、「食」や「民族芸術」のシリーズとは別の切り口でこの紙面から紹介します。

このコーナーは引き続きIAC会員の取材で構成します。ご興味がある方は、事務局にお問合せください。

バルカン半島の北西部、九州と四国を合わせたほどのおよそ51,000平方キロの面積と400万人余りの人口を抱えるボスニア・ヘルツェゴビナ。首都はサラエヴォ、農業と林業が盛んで、ヨーロッパ諸国に家具等を輸出する程だそうです。東京・広尾にある大使館で、女性参事官のイェレナ・パシッチさんに伺いました。

——私たち、日本人はボスニア・ヘルツェゴビナといえば、1992年から95年の内戦のことが頭に浮かびます。

参事官「ボスニア・ヘルツェゴビナにはイスラム教徒が50%、正教会のセルビア人が31%、ローマ・カトリック教会のクロアチア人が15%います。今はお互いの宗教の祭日を祝い合うなど、互いに尊重し合って暮らしています。グローバル化が進む世界で多様性は利点です。」

——2016年はボスニア・ヘルツェゴビナと日本にとって記念すべき年とのことですね。

参事官「外交関係を樹立したのが1996年ですから、2016年は二国間の外交関係樹立20周年ということで非常に記念すべき年になります。この年に元サッカー日本代表の宮本恒靖選手が、南部のモスタルという町に子供たちのためのサッカー学校を設立してくれました。スポーツというのは、人を結ぶ非常に大切な役割を果たしてくれます。」



▲国旗とサッカーボールがデザインされたリュック



▲チェリーブランデー、ハーブティ、はちみつなどの特産品



◀世界遺産のスタリ・モスト橋

文：阿部 櫻子 (IAC 会員)
写真：藤倉 明治 (IAC 会員)



▶寄木細工でテーブルの脚のはめ込みも模様になっている

広告

沖縄の精霊のおはなし。

沖縄の精霊
キジムナーと男の子の友情のお話。

タイトル・作者
「キジムナーとカミジュ」
たまもと さゆり

ご購入はコチラから▼
<https://www.o-kyohan.co.jp/>

az SMARTPHONE ADVERTISING

az&co Inc.

一緒に実現する IACの文化交流

- 会員として活動に参加してください。年会費：個人5千円 法人3万円(一口)
- 「風流」の同行取材にご協力いただける方を募集しています。
- 広告を募集しています。

「風流」やIACホームページへの広告で、貴社、貴店のPRとともにIACの活動をサポートしてください。

